

社会基盤デザイン学科の「地域社会貢献活動経験についての報告書」について

地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科の AO 入試に出願の際には、「地域社会貢献活動経験についての報告書」(以下、「報告書」といいます)を提出することになっています。その内容については、あまり難しく考えないで、以下の説明を参考にしてください。

1. AO 入試で求められる人物像

社会基盤デザイン学科の求める学生像(アドミッションポリシー)は、

1. 国内・海外の地域の課題解決に関心があり、グローバルに活躍したい人材
2. 社会基盤デザインの技術習得に関心があり、そのための幅広い学力を有する人材
3. 社会全体の利益のために奉仕できる責任感のある人材

であり、特に AO 入試では、以下の内容について主眼を置いて試験を実施します。

社会基盤デザイン(インフラ整備, 土木工学)に関心があり, 社会基盤や地域環境, 自然環境など自分の住む環境を“より良いものになりたい”と考えて自ら行動できる者

上記の内容をみるために「報告書」を提出してもらいます。ただし審査は、「報告書」だけでなく、他の書類も考慮して進めます。

2. 「地域社会貢献活動」とは

- ▷ 地域や学校のみみんなのために何かしたことがあれば、それが「地域社会貢献活動」です。
- ▷ 生徒会活動やクラブ活動、クラスや授業での活動など、高校生活を通じてできる範囲でかまいません。「学校という社会」での活動も含まれます。
- ▷ 社会基盤デザイン(インフラ整備, 土木工学)に直接関係ないと思うことでも、地域や学校のみみんなのためになることならば、よいです。
- ▷ 「NPOに参加して活動した。」とか「地域おこしの活動に参加して表彰された。」など、非常に高度な内容でなくても、よいです。もちろん、そのような経験も OK です。
- ▷ 活動の内容そのものよりも、“活動を通じて何を学んだか”、“今後どのようにしたいか”、“自分は何をしたいか”を自分の言葉でしっかり書くことがもっとも大切です。
- ※ 地域社会や学校社会への貢献に直接関係のないスポーツ活動や文化活動などのクラブ活動自体を詳細に記載しても十分な評価の対象とはならないので、注意してください。
- ※ よくわからないときは、遠慮なく 2 頁目「問い合わせ先」に相談してください。

3. 「地域社会貢献活動」の例

具体的な事例としては、以下のようなものも考えられます。あくまでも例なので、これにとらわれず、自由な発想で、地域あるいは学校でみんなのためにしたことを“一つ”「報告書」に書いてください。

地域での取り組みとしては、以下のようなものも含まれます。

- (A1) 町内会で道路の環境美化活動に参加した。
- (A2) 町内会で、沿道に花を植える「花いっぱい運動」に参加した。
- (A3) 地域のサッカークラブの活動として、小中学校のスポーツ指導をした。
- (A4) 地域のお祭りに、スタッフとして参加した。
- (A5) 地域の防災(防犯, 高齢者支援, …)のための活動に参加した。
- (A6) 地域の博物館(図書館, 公民館, …)の活動に、ボランティアで参加した。

また学校での取り組みとしては、以下のようなものも含まれます。

- (B1) 生徒会活動で近隣周辺の清掃活動を行った。
- (B2) 文化祭で、地域の人々と関わる活動をした。
- (B3) 学校の活動の一環で、地域の行事に参加した。
- (B4) 授業で、地域の河川の様子を調べて、河川を汚さないための工夫を発表した。
- (B5) クラブ活動で、意見を出し合って練習の仕方を工夫し、活動成果の向上に貢献した。
- (B6) 文化祭の実行委員として、クラスや部活動の場所・時間の割当などを調整した。

この他、「ホストファミリーとして留学生を迎え入れ、日本や地域のことを理解してもらった。」など、家庭内も含め、受験者が学校内外の社会や人々のために

“より良くしよう”とした活動や経験について記述してください。なお、部活動やサークルにより当てはまる活動内容が複数ある場合でも、代表となる経験活動を一つに限って記述し、複数の活動内容を記述しないよう注意してください。

4. 「報告書」の書き方

報告書をまとめるに当たっては、自分のした活動や経験一つを挙げて、

- I. どのような活動を行ったか(場所、期間も含みます)、
- II. その動機は何であったか、
- III. 活動して感じた問題点や改善すべき点は何か、
- IV. それを解決するには何が必要だと思いか、
- V. この経験の全体的な感想
- VI. 将来どのような形で、社会に貢献していきたいか(大学卒業後のことも含みます)

について、専用の用紙に4枚(1600字)以内で書いてください。

「報告書」の内容は、第1次選考通過後の第2次選考の際に、面接を兼ねたプレゼンテーションで発表してもらいます。第1次選考と第2次選考とで内容を変えることはできませんので、注意してください。

5. 第2次選考における「プレゼンテーション」について

第2次選考では、第1次選考で提出した「報告書」をもとにプレゼンテーションをします。これにはマイクロソフト社の「パワーポイント」というソフトウェアを使用することが望ましいですが、同社の「ワード」などの文書作成ソフトを工夫して使用しても構いません。最終的には PDF という形式のファイルにして、それを1ページずつスクリーンに映しながら、プレゼンテーションをしていただきます。なお、AO入試募集要項中に記載あるとおり、プレゼンテーションソフトは、最新版 Adobe Reader のみとしています。PDF 以外の形式ファイルによる発表は一切認めません。

第2次選考は、ソフトウェアの使い方を審査するものではなく、あくまでも「報告書」の内容について審査するものです。ソフトウェアの使い方は、ごく初歩的なものでかまいません。プレゼンテーションに当たっての熱意、姿勢、審査員の質問に対する受け答えが重要になります。不明な点は遠慮なく、2ページ「問い合わせ先」に相談してください。

6. 第2次選考における受験者待機室における諸注意事項

第2次選考では、プレゼンテーションと面接を実施します(詳しくはAO入試募集要項参照のこと)。受験者数によっては、集合時間から3、4時間程度待機をして頂くこともありますので、受験者待機室は“飲食可”とします。飲み物や軽食を準備したい受験者は、事前に準備し会場に持参してください(飲食で出たゴミは持ち帰りをお願いします)。ただし、一旦受験者待機室に入室後には、特別の理由がない限り、試験終了後まで受験会場(受験者待機室、試験室、プレゼンテーション練習室)からの外出は認められませんので、途中で購入することはできません。

受験者は、受験番号順に試験室にて第2次選考を受けることとなりますが、受験者待機室の他にプレゼンテーションの練習をするための練習室を設けます(練習用パソコン配置有り)。練習室の利用方法及び利用時間は、当日係員が指示しますので指示に従ってください。

受験会場(受験者待機室、試験室、プレゼンテーション練習室)では、携帯、スマートフォン、パソコン(個人)など全ての電子機器の使用は認められません。入室後は全て電源切ってカバンの中に入れてもらい、面接試験終了まで使用できませんのでご注意ください。

7. 第2次選考における提出書類の取り扱いについて

平成30年度アドミッション・オフィス入学試験学生募集要項並びに本資料中に記載あるとおり、第1次選考で審査する書類の「地域社会貢献活動経験についての報告書」は、第2次選考のプレゼンテーションの内容と“同じもの”とします。また、調査書等提出された全ての書類は、第1次選考の際の審査資料として取り扱うとともに、第2次選考においても面接審査を効果的に進めるための基礎資料として活用します。

8. 問い合わせ

AO入試の審査内容(第2次選考も含む)に関する質問は、「問い合わせ先」に相談してください。特に、「報告書」の内容が地域社会貢献活動にあてはまるかどうかは重要なので、疑問がある場合には遠慮なく相談してください(一部、回答できない内容もあるので、その際にご容赦ください)。

「問い合わせ先」

国立大学法人 宇都宮大学 地域デザイン科学部総務係

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2

TEL:028-689-6233 FAX:028-649-6235

E-mail:rdsomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp